

●日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）10 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

2 日に噴火*が観測されたが、爆発的噴火は観測されなかった。

※ 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

6～9 日及び 29～31 日に噴火が観測され、7～8 日には爆発的噴火も観測された。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山】

● 十勝岳 [やや活発な状況]

62-2 火山は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

● 樽前山 [やや活発な状況]

A 火山口及び B 噴気孔群は高温状態が続いている。

● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火山口内の高温状態、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

● 三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

● 福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

3 日に変色水が確認された。

● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

中岳第一火山口浅部の熱活動はやや活発な状態が続いている。

● 霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火山口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いているが、次第に収まる傾向がみられる。

● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

● 口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震のやや多い状態が続いている。

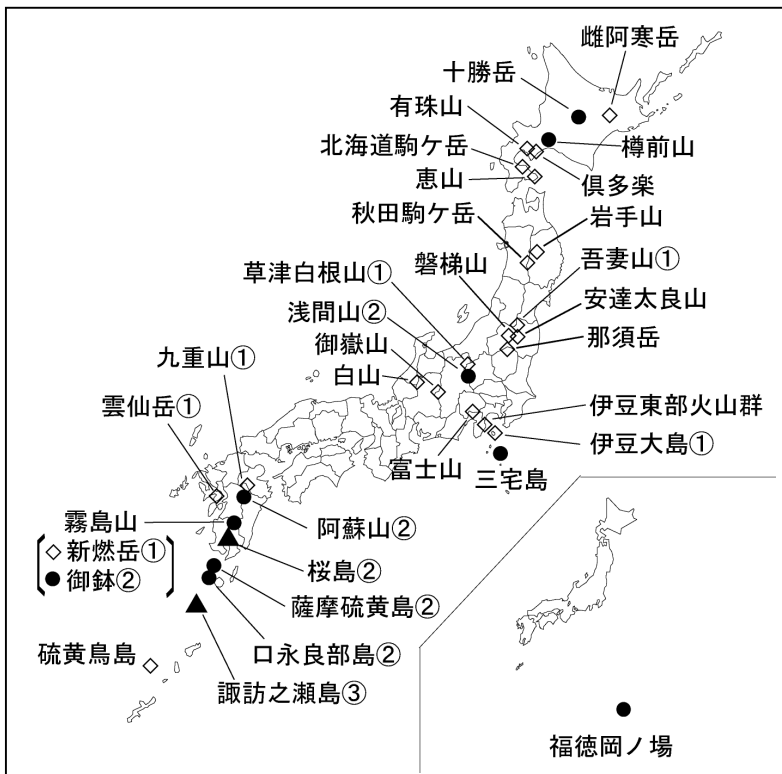


図 1 今回記事を掲載した火山

末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

注 2 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

各火山の活動解説

◇ 雌阿寒岳 【比較的静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

26 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口、赤沼西方噴気孔及び中マチネシリの噴煙状況に変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも各火口及びその周辺の温度分布に変化はみられなかった。

気象庁地磁気観測所が 8 月 19 日及び 9 月 13 日（いずれも期間外）に行った地磁気全磁力観測によると、96-1 火口付近の地下の冷却を示す変化が続いている。

1) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度もしくは温度分布を測定する測器であり、一方、熱電対温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器である。前者は熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

● 十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で推移した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

26 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測では、62-2 火口、大正火口、旧噴火口の状況に変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも各火口及びその周辺の温度分布に変化はみられなかった。

火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はみられなかった。

● 樽前山 【やや活発な状況】

11～13 日に行った調査観測では、各火口の状

況に特段の変化はなく、A 火口の最高温度は約 570℃（赤外放射温度計¹⁾による、前回 6 月 29 日は約 580℃）、B 噴気孔群の最高温度は約 440℃（熱電対温度計¹⁾による、前回 5 月 25 日は約 440℃）と、いずれも引き続き高温であった。

12 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測では、溶岩ドーム及びドーム周辺の火口や地熱域の状況に特段の変化はなく、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、A 火口、B 噴気孔群及びドーム南東亀裂に対応する高温域の拡大等は認められなかった。

各火口の噴煙の状況、火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。また、地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

◇ 倶多楽 【静穏な状況】

12 日に北海道開発局の協力より行った上空からの観測では、日和山山頂部及び地獄谷爆裂火口内の噴気活動、大湯沼及び奥湯沼の状況に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

◇ 有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

12 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測でも、各火口の状況に特段の変化はなかった。

◇ 北海道駒ヶ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測では、わずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

24～28 日に行った調査観測では、昭和 4 年火口の熱的な活動に大きな変化はなく、12 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測でも、同火口の噴気活動に特段の変化はなかった。

◇ 恵山 【静穏な状況】

12 日に北海道開発局の協力より行った上空か

らの観測では、溶岩ドーム西側の爆裂火口内の噴気活動及び熱的な状態に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

◇ 岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 秋田駒ヶ岳 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 吾妻山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 安達太良山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

18～19日に行った調査観測では、沼ノ平火口の噴気活動及び地熱地帯の状況に特段の変化はなかった。

気象庁地磁気観測所が12日に行った地磁気全磁力繰り返し観測によると、沼ノ平火口付近の地下でわずかな冷却を示す全磁力値の変化が続いている。

◇ 磐梯山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

6日に行った調査観測では、火口壁及び沼の平の噴気活動及び地熱地帯の状況に特段の変化はなかった。

◇ 那須岳 【静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 草津白根山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

気象庁地磁気観測所が4～6日に行った地磁気全磁力繰り返し観測によると、湯釜付近直下での温度低下を示す全磁力値の変化が続いている。

● 浅間山 【やや活発な状況（レベル2）】

山頂火口内の高温状態、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は概ね200～300mで推移した（最高は20日の火口縁上500m）。また、夜間に山麓の高感度カメラ²⁾で微弱な火映がたびたび観測されており、火口内は依然として高温状態が続いていると推定される（図2）。

13日及び20日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり600～800トン（13日）及び1,000～1,500トン（20日）で、依然としてやや多い状態が続いている（図3）。

12日及び20日に上空からの観測³⁾を、24～25日に山頂部付近での調査観測を行った。いずれの観測時も山頂火口内の噴煙量が多く、火口内は噴煙の切れ間からわずかに確認出来る程度であったが、火口底の地形および温度分布には特段の変化はなかった。火口底の中央部には直径約150mのくぼみがあり、くぼみの底は高温で、さらに噴気孔に対応するとみられる直径数mの高温部が複数確認された。上空からの赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火口内の最高温度は約440℃（12日）及び約460℃（20日）で、依然として高温状態が続いている（前回9月13日は約370℃）。

火山性地震は10日に一時的に増加し145回発生した。その他の日も1日あたり25～73回で推移し、依然としてやや多い状態が続いている。震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約1～3kmに集中しており、前期間までと比べ特段の変化はなかった。火山性微動の回数もやや多い状態が続いており1日あたり0～14回で推移した（図2）。

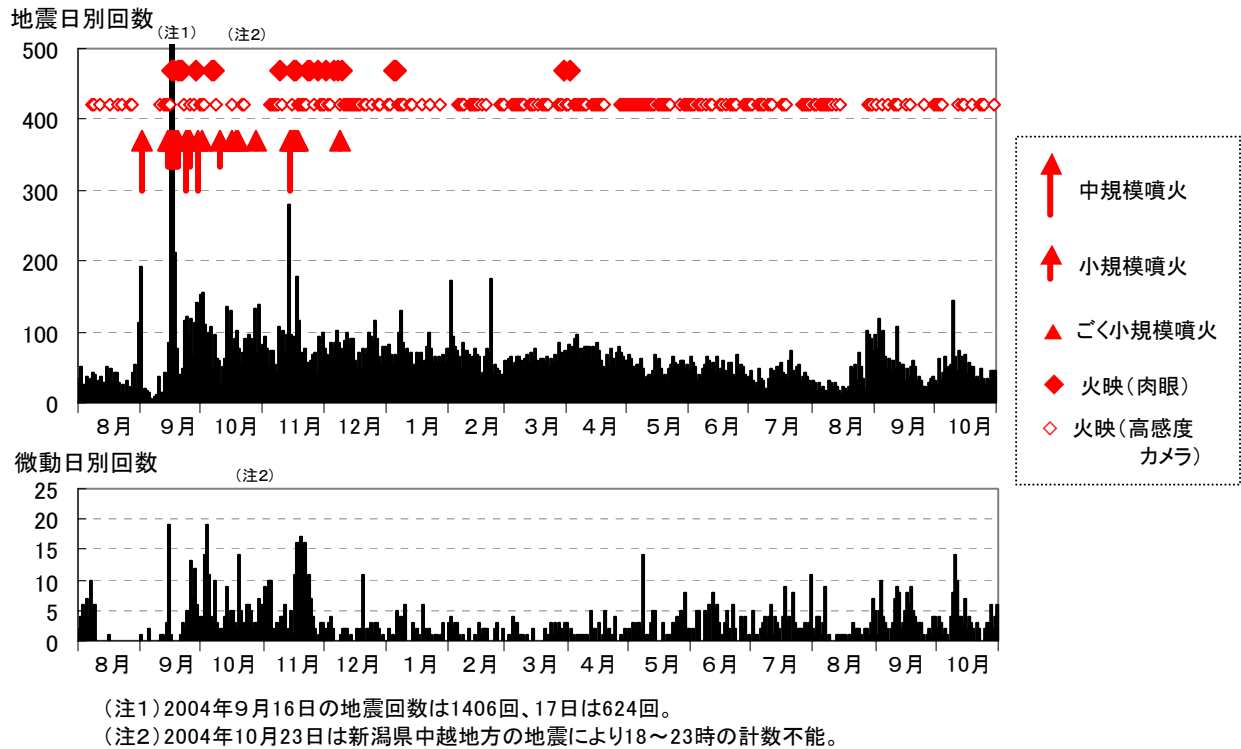


図2 浅間山 2004年8月～2005年10月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況

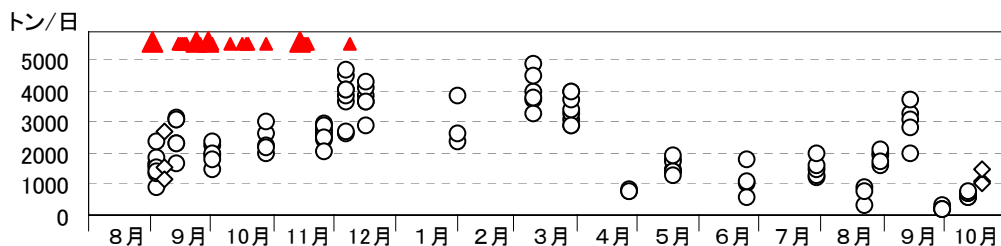


図3 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2004年8月～2005年10月）

大きい▲は中爆発、小さい▲は小噴火以下を示す。
○は車載トランス、◇はヘリ搭載トランスによる。

傾斜計及びGPSによる地殻変動観測、及び光波測距観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。また、国土地理院のGPSによる広域の地殻変動観測によれば、浅間山周辺の基線で2004年10月後半以降観測されていた浅間山山体の膨張を示すゆっくりした伸びが、今年の6月頃から次第に鈍化し、最近はほぼ停止した状態になっている。

- 2) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。
- 3) 12日は長野県の協力により、気象庁と産業技術総合研究所が共同で実施。20日は陸上自衛隊の協力により実施。

◇ 御嶽山 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

◇ 白山 [静穏な状況]

一時的な地震の増加がみられたが、山頂部に噴気は認められず、火山活動は静穏に経過した。

3日13時59分、白山山頂の西側約2km付近の浅いところを震源とするマグニチュード(M)4.5の地震が発生し、この地震により白山市白峰で震度2を観測した。その後、この地震の余震と見られるM2未満の規模の小さな地震が14時台に14回発生したが、それ以降、地震活動はおさ

まった。白山付近では、今年に入ってから 2 月、4 月及び 8 月に一時的な地震増加が見られていたが、M4 を超える規模の地震が発生したのは 1993 年 5 月 8 日の M4.2 以来であった。

国土交通省金沢河川国道事務所によると、山頂部に噴気は認められず、山麓の地熱地帯でも特に異常は認められていない。

◇ 富士山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

◇ 伊豆東部火山群 【静穏な状況】

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

◇ 伊豆大島 【静穏な状況（レベル 1）】

地殻変動観測では、長期的な山体の膨張傾向は継続しているが、地震活動には特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

● 三宅島 【やや活発な状況】

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出し、噴煙高度は概ね 200～300m で推移した（最高は 26 日の火口縁上 1,200 m）。

上空から行った火山ガス観測⁴⁾では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2,800～4,300 トンと依然として多い状態であった（図 4）。三宅島の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

上空から行った火口内の観測⁴⁾では、火口内温度の最高は約 190℃（25 日）で（赤外熱映像装置¹⁾による）依然として高温状態が続いている。火口内の地形等に特段の変化はなかった。地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

5 日、6 日及び 29 日に火山性地震が一時的に増加し、これらの地震増加中に空振を伴う振幅のやや大きな低周波地震が発生した。5 日 11 時 45 分に発生した低周波地震では三宅村神着及び三宅村坪田で震度 1 を、6 日 07 時 40 分及び 29 日 03 時 06 分に発生した低周波地震では三宅村神着で震度 1 を、それぞれ観測した。また、地震の増加は伴わなかったが、27 日にも空振を伴った振幅のやや大きな低周波地震が発生した。これら低周波地震の発生時に噴煙の状況等その他の観測データには特に異常はみられなかった⁵⁾。

GPS による地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

4) 6 日、14 日及び 25 日に、警視庁、海上自衛隊及び東京消防庁の協力により実施。

5) 三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した時に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

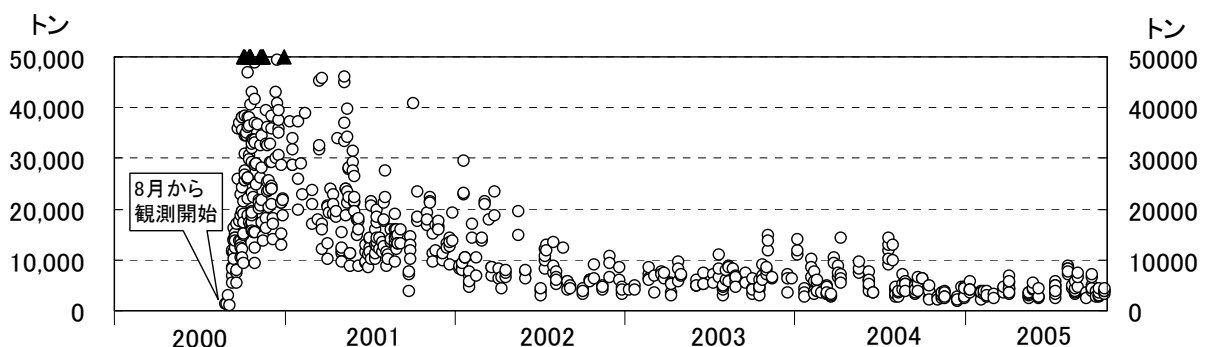


図 4 三宅島 二酸化硫黄の 1 日あたりの放出量（2000 年 8 月～2005 年 10 月）
2004 年秋以降は 1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

（注）▲は 50,000 トン/日以上を表す。

● 福徳岡ノ場 【やや活発な状況】

3日に海上保安庁が上空から行った観測によると、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる淡い青白色の変色水が東方向に長さ約300m、最大幅約50mにわたって帯状に広がっているのが確認された。噴煙や浮遊物は確認されなかった。なお、27日に海上自衛隊が上空から行った観測では、変色水は確認されなかった。

福徳岡ノ場では以前から変色水がたびたび確認されており、今年7月2～3日には小規模な海底噴火が発生して、その後もしばしば変色水が確認されている。

◇ 九重山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

● 阿蘇山 【やや活発な状況（レベル2）】

中岳第一火口浅部の熱活動はやや活発な状態が続いている。

現地観測⁶⁾によると、中岳第一火口内の湯だまり⁷⁾の表面温度は68～70℃とやや高い状態が続いている（赤外放射温度計¹⁾による、前期間は67～70℃）。湯だまり量は約6割で経過し、湯だまり内では噴湯現象は観測されたが、土砂噴出は観測されなかった。

火山性連続微動は、5日から振幅のやや大きい状態が続いているが、その後の振幅には大きな変化はみられていない。

孤立型微動の発生状況に大きな変化はなく（月発生回数は今期間2,284回、前期間1,791回）、火山性地震は減少し少ない状態で経過した（月発生回数は今期間62回、前期間280回）。

噴煙の状況には特段の変化はなく、GPSによる地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。なお、国土地理院のGPSによる広域の地殻変動観測によれば、阿蘇山を取り囲む基線では、2004年後半頃から山体の膨張を示すわずかな伸びが観測されていたが、最近では伸びが停滞しているように見える。

気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力観測によると、火山活動に伴う変化は認められなかった。

6) 現地観測を6、13、20及び27日に実施。

7) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

◇ 雲仙岳 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

◇ 霧島山（新燃岳） 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動は低調で、傾斜計及びGPSによる地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

● 霧島山（御鉢） 【やや活発な状況（レベル2）】

御鉢火口内で2003年12月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながら次第に収まる傾向がみられるが、9日に火口縁上300m

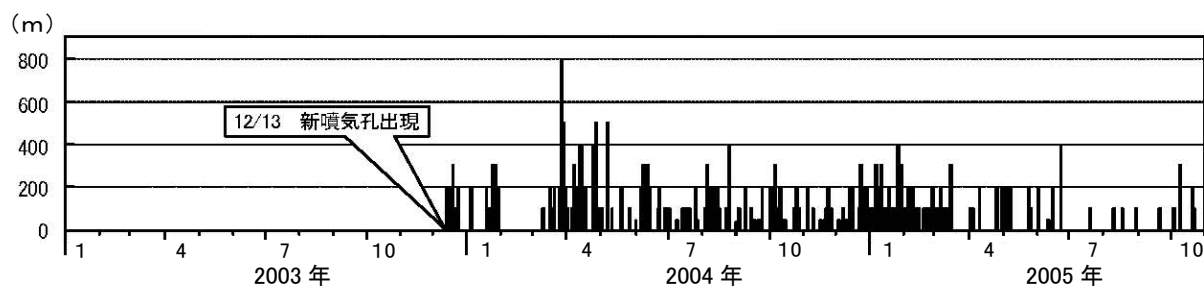


図5 霧島山 御鉢の噴気高度（2003年1月～2005年10月）

火口縁上の高さ。御鉢火口の南西約5kmに設置した監視カメラからの観測。

まで上がる噴気が観測されるなど時折火口縁を超える噴気が観測され、依然としてやや活発な状態が続いている（図5）。

火山性地震及び微動の活動は低調で、GPSによる地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

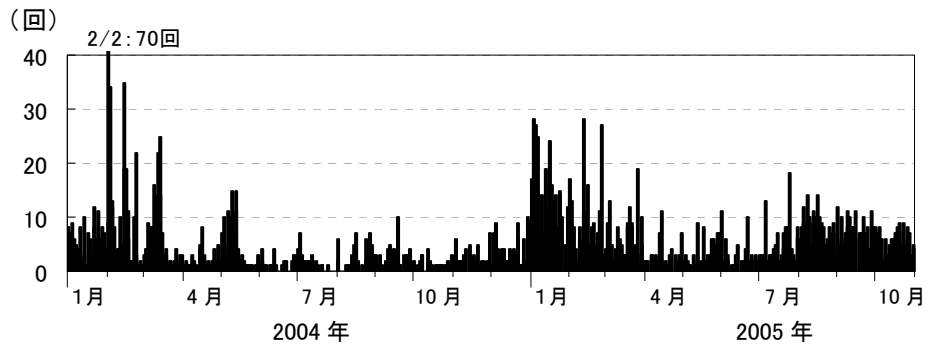


図6 口永良部島 火山性地震の日別発生状況 (2004年1月～2005年10月)

数として計数している。

▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル2）]

2日に小規模な噴火⁸⁾が2回観測されたが、爆発的噴火はなく、比較的静穏な噴火活動が続いている（前期間も爆発的噴火はなく、小規模な噴火⁸⁾を2回観測）。噴煙の最高は2日の噴火に伴う火口縁上1,100m以上（灰白色、1,100mで雲に入る）であった。この他、ごく小規模な噴火も時々発生し、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で降灰が観測された日が4日あったが、いずれも降灰量⁹⁾は0.5g/m²未満の微量であった（前期間は9月3日及び4日にそれぞれ降灰量⁹⁾1g/m²を観測）。

火山性地震は長期的には少ない状態が続いており、火山性微動は発生しなかった。

GPSによる地殻変動観測では、長期的には東西方向にわずかな伸びの傾向が続いているが、短期的には3月以降伸びの鈍化が見られる。

8) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回

9) 降灰量は前日09時～当日09時の総量を観測している。

● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル2）]

噴火は観測されなかったが、噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から断続的に噴出しており、噴煙の最高は火口縁上600mであった。三島村役場硫黄島出張所によると、期間中、集落（硫黄岳の西南西約3km）で降灰はなかった。

火山性地震は15～16日にやや増加したが、その他の日は少ない状態で経過した。地震の増加に伴う噴煙活動の変化はみられなかった。火山性微動は少ない状態で経過した。

● 口永良部島 [やや活発な状況（レベル2）]

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は164回（前期間201回）であった（図6）。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は少ない状態で経過した。監視カメラ

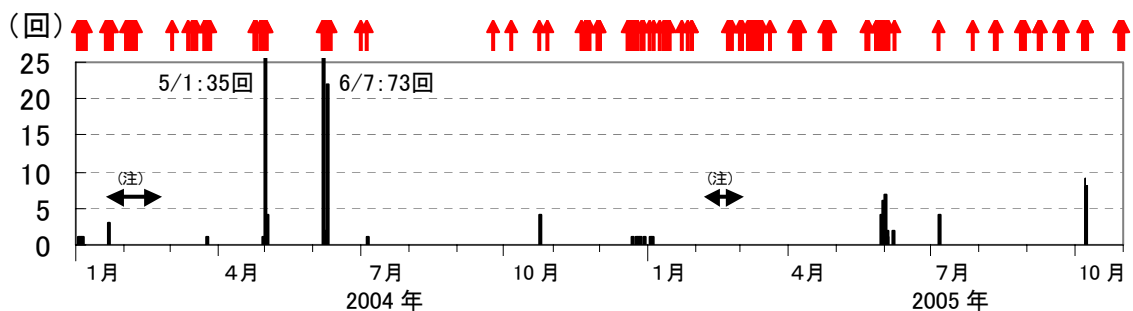


図7 諏訪之瀬島 爆発的噴火の日別発生回数及び噴火の発生状況 (2004年1月～2005年10月) ↑は噴火発生日

(注) 2004年1月22日～2月26日、2005年2月6日～3月3日は観測機器故障のため爆発的噴火の発生状況不明。

（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、噴気等は観測されなかった。

▲ 諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル 3）】

6～9 日及び 29～31 日に噴火が観測され、7～8 日には爆発的噴火も観測された。

6～9 日及び 29～31 日に噴火が観測された。6～9 日の噴火活動は活発で、爆発的噴火が 7 日に 9 回、8 日に 8 回観測された（図 7）。爆発的噴火が観測されたのは 7 月 6 日以来であった。十島村役場諏訪之瀬島出張所（以下、出張所）によると、7～8 日に集落（御岳の南南西約 4 km）で鳴動が聞こえ、6 日及び 9 日には集落で降灰があ

った。噴煙の最高は出張所により 8 日に確認された火口縁上 1,000m であった。

29～31 日の噴火では、爆発的噴火は観測されなかった。

◇ 硫黄島 【静穏な状況】

19 日に長崎海洋気象台の観測船「長風丸」の船上から行った遠望観測によると、噴気活動に特段の変化はなく、火山活動に異常は認められなかった。また、気象研究所及び東京大学地震研究所が共同で行っている地震観測によると、期間中の地震活動に特段の変化はなかった。

資料 1 2005 年 10 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 191 号	7 日 16:00	9 月 30 日～10 月 7 日 15 時までの活動状況。30 日実施の火山ガス観測結果。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 192 号	14 日 16:00	7～14 日 15 時までの活動状況。12 日実施の上空から観測結果及び 13 日実施の火山ガス観測結果。火山活動度レベル
	火山観測情報第 193 号	21 日 16:00	14～21 日 15 時までの活動状況。20 日実施の上空から観測結果。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 194 号	28 日 16:00	21～28 日 15 時までの活動状況。24～25 日に行った調査観測結果。火山活動度レベルは 2。
三宅島	火山観測情報第 519～549 号 (1 日 1 回発表)	1 日～31 日 16:30	前日 16 時～当日 16 時の活動状況、及び上空の風の予想。
阿蘇山	火山観測情報第 47 号	7 日 11:00	やや活発な火山活動が継続（湯だまりの表面温度高い、湯だまり量約 6 割、5 日から連続微動の振幅やや増大）。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 48 号	14 日 11:00	やや活発な火山活動が継続（湯だまりの表面温度やや高い、連続微動の振幅やや大きい状態継続）。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 49 号	21 日 11:00	
	火山観測情報第 50 号	28 日 11:00	

資料 2 過去 1 年間の火山活動の状況

火 山 名	平成16年		平成17年 (2005年)									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
雌阿寒岳	●	●	●	●	●	●	●	●				
十勝岳	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
樽前山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
吾妻山				①	①	①	①	①	①	①	①	①
草津白根山		●		①	①	①	①	①	①	①	①	①
浅間山	▲	▲	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	③	③	③	③	③	③	③	③	③→②	②	②	②
箱根山										●		
伊豆東部火山群										●		
伊豆大島	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
三宅島	▲	▲	●	●	●	▲	▲	●	●	●	●	●
伊豆鳥島				●								
福德岡ノ場	●		●	●	●		●		▲		●	●
九重山				①	①	①	①	①	①	①	①	①
阿蘇山	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●
	②	②	②	②	②	②→③	③→②	②	②	②	②	②
雲仙岳	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧島山（新燃岳）				①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧島山（御鉢）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
				②	②	②	②	②	②	②	②	②
桜島	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
薩摩硫黄島				●	●	●	●	●	●	●	●	●
				②	②	②	②	②	②	②	②	②
口永良部島			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
				②	②	②	②	②	②	②	②	②
諏訪之瀬島	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
				③	③	③	③	③	③	③	③	③
硫黄島						●						

活動状況（活動）

▲：噴火した火山

●：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山

火山活動度レベル

③：小規模な噴火が発生かその可能性

②：やや活発な火山活動

（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）

①：静穏な火山活動

● 世界の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）10 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

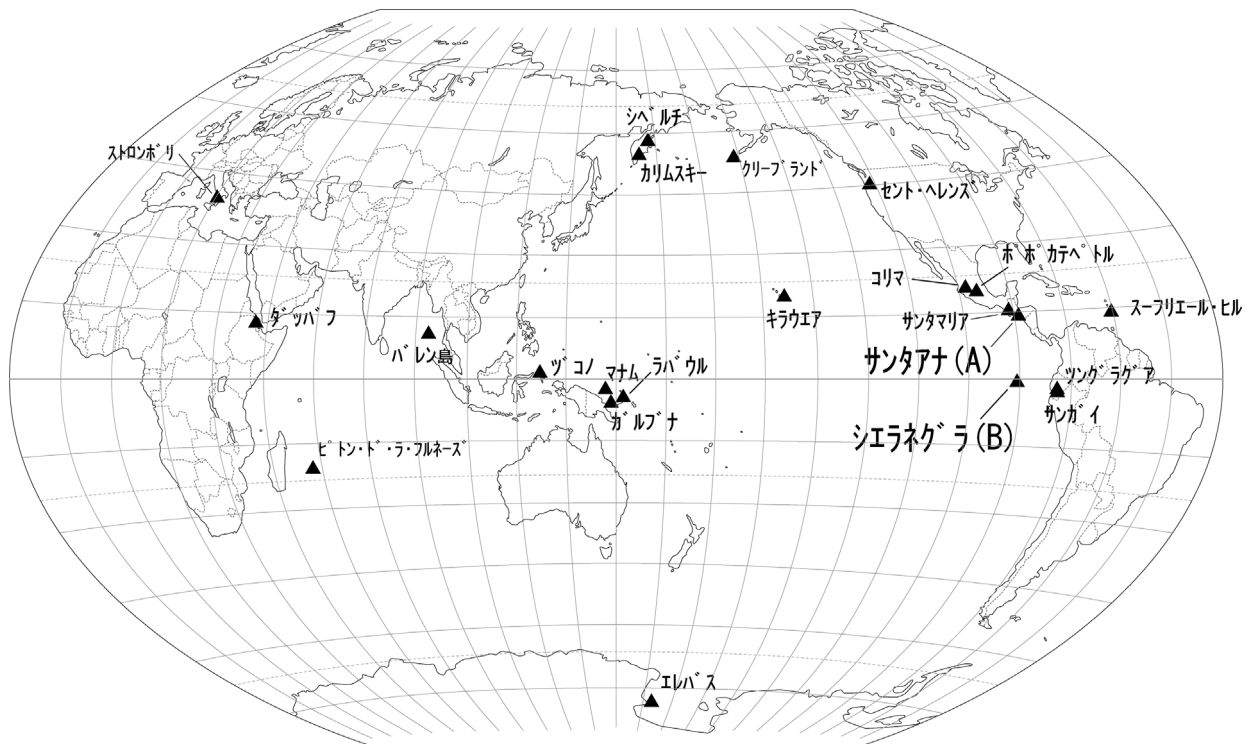
サンタアナ火山（エルサルバドル）（図中 A）

1 日 08 時 20 分頃規模の大きな噴火があり、衛星からの観測によると、噴煙の高さは海拔 14km に達したと推定される。直径 1 m に達する噴石が火口の南 2 km まで飛散し、火山の西側にある町では降灰があった。降灰による農作物の被害は 1,400ha に達した。火山付近では数千人の住民が避難をした。

シエラネグラ火山（ガラパゴス諸島：エクアドル）（図中 B）

22 日 17 時 30 分頃噴火が始まり、爆発音は南東に 20km 離れた町でも聴こえた。衛星からの観測によると、噴煙は海拔 20km まで達したと推定される。噴火は長径 11km、短径 7 km の山頂カルデラ内の北東側で始まり、長さ 500m の割れ目に沿って 4 つの火口が開いた。これらの火口や割れ目から激しい溶岩噴泉が高さ 200～300m まで上がった。割れ目はその後西へ伸び、東西に長さ 2 km に達した。流出した溶岩流は当初北西山腹を数 km 流れているとの報告があったが、23 日に行った専門家による観測では、大量の溶岩がカルデラ内に流出し、主な溶岩流は幅 1～2 km でカルデラ壁の内側に沿って流れ、カルデラ内を東回りにほぼ半周した。この噴火による人の住んでいる地域への影響はなかった。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



平成 17 年 10 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）